

## 令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 直地区 協議記録

日 時	2025 年 11 月 19 日（水） 18:00～19:40
場 所	直小学校 体育館

参加者： 25 名

### 【開会のあいさつ】

樋爪区長会長：

市長はじめ行政の皆さんには、震災後の復旧・復興に対し、尽力を賜り感謝する。復旧・復興については少しずつ進んでいるが、地震前の賑いを取り戻すまでには程遠い状況である。そのためには、課題も山積みであり、年月も相当かかるのではないかというのは、皆さんも思っているのではないだろうか。復興に関しては今後、市の復興計画に則って進めていくと思うが、行政の方に全てお任せするのではなく、住んでいる我々住民がどういうまちづくりにするか、どういう復興を成し遂げれば良いのか、一人ひとりが考え、行政の人たちと一緒に意見を交換しながら進めていかなければならないと考えている。今日はそういう場であるので、時間の限り皆さんの意見をお願いしたい。

番匠市議会議長：

直地区のまちを形づくるために大切な道路の話であったり、復興公営住宅の話が中心になろうかと思うが、地区がどうまちを作り直していくかということを地区の住民が意見表明することは、行政がこれから復興へ向かって取り組むためにも必要である。短い時間ではあるが、中身の濃い意見交換会になるようよろしくお願いします。

泉谷市長：

発災からもう2年近くが経過しようとしている。国土交通省、石川県珠洲土木事務所の尽力により、土砂の対策工事や、道路の復旧、海岸護岸の復旧等々を進めている。予定としては、当初この夏から秋にかけて復旧工事の進捗状況を説明する機会が設けられれば良かったが、見通しを示すことがようやくできるようになった。本日、珠洲土木事務所にお越しいただいており、後ほど説明もいただく。

公費解体については、珠洲市全体で既に97.5%が完了している。直地区においては、あと17件で完了するという状況であるが、更地が増えてきている。先ほど議長、区長会長からの話にもあった通り、この直地区の「新たなまちのかたち」をどうしていくか、これまでも議論いただいてきたが、災いを転じて参りたい思いである。より安全で快適なまちにするにはどうすればよいか、直地区のまちづくりといったことも課題である。本日のこの地区別プラン策定にかかる意見交換会で、皆様方からの意見をいただきたい。

先ほど区長会長は賑いという話もされたが、珠洲市全体で人口減少も進んでいる。発災から今までに大体16%ほど人口が減った。この人口減少を抑える、維持していくためにも、できるだけ迅速に復旧を進めていかなければならないし、復興公営住宅の整備、住まいの提供も重要である。そして、皆さんと共に、より魅力のある復興を成し遂げていくことが重要であると考えている。この地区別プラン、すなわち地区の「新たなまちのかたち」をどうするかについて、できるだけ早く固め、具体的に進めていきたいと考えている。

伊藤 地域おこし協力隊：

珠洲市の地域おこし協力隊として活動している伊藤です。私自身は福島県出身で、小学4年生の時に東日本大震災と福島第一原発事故を経験した。その時に全国各地の方々が被災地を応援してくださったことがきっかけで、次は自分が支援する側に立ちたいと思い、珠洲市に移住してきた。ここに来るまでは、ものを伝える、魅力を伝える仕事をしており、写真、映像、デザインなど、色々な方法を使ってその地域に根付いている伝統文化などを発信する活動をしてきた。「賑いを取り戻す」という話も出ていたと思うが、私もそういった魅力を発信する立場として、賑いを取り戻したり地域を起こすということを実現させるためには、ここに永く暮らしてきた住民一人ひとりが考えている地域の課題であったり未来のこと、そういった事を一つ一つしっかり勉強させていただくことが大切だと考えている。今後ともよろしくお願いします。

## 【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

資料2 下水処理分区

## 【意見交換】

参加者：

震災からそろそろ2年経つが、これから水道はじめ様々な工事が続くのだということを痛感し、本当にご苦労様だと思う。まず復興公営住宅について、私も自力再建するか復興公営住宅か悩み中である。行政の皆さんが努力されているのは重々わかるが、もう少し早く提示していただけなかったかと思う。それを待っていてどうするかと考えている方もたくさんいる。場所がどこになるのか、そして、一戸建てか、長屋なのか、色々な思いがあると思う。もう少し早くなれば、決断をどうするかという事ができたと思っている。場所は前から少し聞いていた場所なので、分かっていたが、私自身が一番悩んでいるのは一戸建てか長屋なのかである。直地区では一戸建ては無理だろうということも分かっているが、多分皆さんがそこを一番知りたいのではないかな。公営住宅整備検討地区について、どういうことでここだけ点線に囲んであるのか。復興公営住宅は市民の要望があって変更もあるのだろうと思うが、それについて説明いただきたい。

2点目、去年も話をしたが、子どもたちの遊び場、すなわち子どもたちの成長段階における遊んだり飛び跳ねたりする場所が必要である。仮設グラウンドのことについても質問し、今年の2学期から間に合うことを期待していたが遅れた。広さをもう少し広げればよいと思うが、仮設グラウンドで子どもたちが運動したり、遊んだり、友達との人間関係を作る上で大事か、私は学校にいたので十分にわかっているつもりである。非常に大事であるのに、残念ながら実現されていない。なぜこんなに遅れたのであろうか。もちろん三崎地区など早いところもあるが、良い立地がなかったのかなという気もしている。輪島市では子どもたちが屋内で遊べる場所がいくつもあるはずである。そう考えると珠洲は少し残念な気がする。

3点目、市民体育館の下に屋内交流施設が整備される件、新聞報道などでどの規模でどの程度なのかということも気になる。子どもたちだけでなく大人も一緒に使用できるのか分からないが、こういう施設ができるということは素晴らしいと思う。概要について説明いただければありがたい。

市長：

復興公営住宅がなかなか進まないことは、申し訳ない思いである。まず用地をどこにするかの問題が

あり、その地区でどれだけの方々が希望されるかといったことも、今、4回目の意向調査中であるが、そこを固めて進めていかななくてはならない。当然、用地造成が必要なところも出てくるし、そこから設計、建築ということになる。できるだけ早く入居いただけるように取り組んでいきたいと思う。今年中には全地区において整備方針を固め、年明けからできるだけ早く進めていきたい。皆さん自力再建をされるか、復興公営住宅に入居されるか、あるいは入居する上でもどの場所にするか、色々と悩みも多いかと思う。冒頭にも申し上げたように、今のところ応急仮設住宅に入居している方については96.6%の回答をいただいている。できるだけ多くの方々のご意向をしっかりと把握して進めていきたい。

子どもたちの遊び場について、基本設計の発注を既にしており、どんな形で整備をするかというところを内部でやり取りをしながら練っているところである。これも用地の造成も出てくるし、最終的に計画を固めて詳細設計に入っていくが、できるだけ早く仕上がるように進めていきたい。子どもたちの遊び場がメインであるが、大人も集えるように、健康増進を図るような施設にしていきたい。子どもたちの遊び場として、今現在、旧夢つづき（民間空き施設）で特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンが子どもたちが楽しめるような企画も展開していただいている。子どもたちが思いきり遊べるような機会を設けていけるように取り組んでいきたい。

珠洲市：

復興公営住宅について、直地区の皆さんだけでなく、地区外の方も直地区での希望が意向調査の結果で非常に多い。そのため直地区では供給戸数が多くなることが予想されるため、長屋や共同住宅タイプになるかと思われる。整備予定地と整備検討地の違いであるが、実線の場所は既に測量を実施しているところである。点線の場所に関しては今後、意向調査の結果によっては測量を実施していかなければならないと考えているところであり、実線のほうは速やかに事業者を決定して整備を進めていきたいと考えている。今後の整備の流れとしては、年内には市内全地区において、整備場所や戸数を示したいと考えており、その後、年明けには事業者の選定を行っていきたい。事業者の選定に3ヶ月、その後の設計に8ヶ月程、工事にはおよそ1年ほど要するため、事業者が決定して2年後には入居ができるだろうと考えている。事業者が夏には決まると考えているため、早ければ令和10年3月、4月から入居というのが理想の形である。

市長：

まだ2年ほどかかるというのは本当に遅いという話になると思うが、できるだけ前倒しで進められるように取り組んでいきたいと考える。ここには出てきていないが、健康増進センターの場所でも共同住宅タイプで計画している。

珠洲市：

子どもの屋内交流施設については、基本設計の発注を既に行っている。その中で、例えばこういった部分が必要ではないかとか、公共施設でも被災した施設が多いので、そういった機能を入れ込むのかどうかということも含め、検討を進めているところである。日程としては令和8年度には敷地造成から実施設計まで進め、令和9年度には着工できれば良いなということで進めている状況である。

樋爪区長会長

復興公営住宅の実線のところは決定ということでよろしいか。また、西中町地内の海辺近くに建つ住宅に関しては、津波対策などを考えているのか。

珠洲市：

12月議会にはお示しできるだろうと考えている。津波浸水区域内の復興公営住宅に関しては対策を講じていきたい。また、若山川の河川洪水については直地区に影響がないと考えている。

市長：

1階部分を駐車場にするなどの対応をしていきたいと考えている。

樋爪区長会長

新聞で緑丘中学校の人工芝整備の記事が載っていたが、場所は公園のところか。

泉谷市長：

緑丘中学校の野球部が練習していたところがだいぶ荒れているので、そこを人工芝化し、できるだけそこで色々なスポーツができるように取り組んでいきたいと考えている。

参加者：

人工芝の話が出たが、夜間にスポーツをする方たちもいるので、ナイター設備もあれば良いと思う。

そうすると使う人の幅も広がる。検討していただければ良いと思う。

また、子どもの遊び場の話が出たが、子どもはどの辺りまでなのか。旧夢つづきのところを私もよく出入りするが、保育所とか小学校低学年が範囲である。中学生、高校生の居場所がないという事も親子議会などで話を聞く。中学生、高校生は、行く場所がなくて図書館のロビーのところで固まっていたりする。保育所や小学生が対象だと整備しやすいが、中高生がゆっくり語り合えるところや自由に過ごせるところがあれば良いと思う。

もう1点、復興公営住宅の話であるが、私はこれまでずっと説明会を聞いて、土地もなかなか無いし、進まないし、入りたい人がたくさんいるから2階建て3階建てというのも仕方がないと思っている。私は福祉の仕事をしており、珠洲市は高齢の方が多いので、2年後、3年後入居ということになると、2階、3階が不便な方が大半なのではないだろうか。高齢者が体を痛めて入院した時、在宅復帰しようという時、住宅が2階であると戻れない。珠洲市の人口の度合いなどを見ると、平屋中心という話が出ることも分からなくはないと思う。宝立地区の木造仮設住宅を見ていて、福祉側からデイサービスにお迎えに行くにしても、2階、3階だと大変であり、そこから皆さんをお連れするというのも大変だと聞く。福祉を受ける側も提供する側も、平屋の方が長い目で見るとありがたいと思う。

市長：

飯田高校下で予定している子どもたちの遊び場であるが、金沢市の「あめるんパーク」やかほく市の「かほっくる」があるが、そのような形で子どもたちが楽しく遊べるような施設を目指す。年齢層については広い方が良いと思うし、今言われたように中高生の集う場所がほしいということもあるので、基本設計、基本計画の中でどこまで機能を入れ込んでいくかやり取りしている。できるだけ幅広く、大人も含めて楽しめるような施設にしていきたいと思うので、具体的な意見があればおっしゃっていただきたい。

緑丘中学校の人工芝のナイターはちょっと厳しい。予算的にもナイター設備、照明は高額で、緑丘中学校の生徒向けという思いである。市営野球場に照明をつけることもかなり高額となる。要望はあるが、色々と総合的に考えていきたい。飯田港についても、国土交通省の権限代行で復旧を進めていただいて

いるが、岸壁が完全に傾いてしまっているため、直すより埋める形での復旧になっていく。そうすると、今シーサイドの解体を進めているが、相当広い土地ができることになる。どういう活用をするか検討中であり、どこかで照明付きの施設が整えられないかということも考えていきたいと思っている。

復興公営住宅については私も同じ考えで、今はまだ元気でもその先ということもあるので、長屋タイプにしてもできるだけ平屋の方が良いだろうと思うし、先ほども話にあったが、津波の対策といったこともある。そこは1階部分が駐車場で2階、3階が住居ということになるが、そういった際はエレベーターをつけるということで対応していきたいと思う。できるだけ1階の平屋なのか、2階、3階建てとしてもエレベーターをつけられればと考えている。

参加者：

道路についてお願いしたいことがある。自分の住んでいるところの東中町地内から蛸島町への道で、市役所の道路関係の方にも1度お願いしたが、地震で道が開いてしまい、側溝も割れたようになり落ちそうなので石を入れて我慢してやっている。その箇所のアスファルトも10cmから20cm落ちて傾いた状態になっており、車が通れば落ちるのではないかなと思うような状態である。令和7年から工事ということであるが、それ以前に何か対応してくれないのだろうかと思い、把握されているか聞きたい。自分が住んでいるところは周りに誰もいないので、自分しか言う人がいない状態である。

市長：

応急的な対応をしていく。本格復旧は来年度からということになっているが、これから雪も降るので、穴が開いているかどうかとも分からなくなり危なくなる。できるだけ雪が降る前に応急的な安全対策を講じられるよう現地確認する。

参加者：

行政も一緒にやっているのだから、我々もできるだけ協力して取り組んでいきたい。3つほど質問したい。

1点目、直消防分団近くの水路の上の方が崩れて、泥も入ったりして流れない状態になっている。雪が降ってくると水が30cmから40cmぐらい溜まる。消防関係者もよくご存知だろうと思うが、応急復旧でなんとかできないか。現地に来ればいつでも案内する。

2点目は、道路と側溝の間に結構な隙間が空いている。これは地震が発生してからすぐ市役所の方に申し入れしたが、道路を本復旧する時と同時期にやりたいという回答だったが、既に2年ほど経っている。深さも1mくらい沈下している箇所がある。安全面も問題があるし、これから雪が降ってくると非常に都合が悪く、応急的な対応できないのだろうか。

3点目は、工事するのは多分、市外業者が多いのではないだろうか。市内の業者でこの工事を担うのは非常に難しい話だと思うが、次に心配しているのは、工事に来る方の宿泊場所が十分なのか。公費解体時も七尾市の和倉まで行って泊まるとか、金沢市から来て工事すると聞いた。当然、遅く来て早く帰るのが実態だと思うので、手立てはしっかりされているのか。

市長：

本当に危ない箇所については、意見交換会が終わってから具体的な場所を環境建設課にご指摘いただきたいと思う。消防分団の防火水槽横の水路についても確認をして、対応できるようであればしていく。こういう機会に言っていただければすぐに見に行くので、ご遠慮なく言っていただきたい。

復旧工事にかかる作業される方の宿舎であるが、だいぶ進んできていると思う。大手のほうで前田建設とか西松建設は自前で準備しており、それぞれの業者も用意されていると思う。一般社団法人珠洲建

設業協会のほうで寝泊まりできるところも、珠洲警察署の裏あたりで、随分前に建てられているので、1年前と今とでは状況は違ってきている。1年前は、応急的な工事に来られる方については、泊まる場所がないので、金沢から毎日往復し、その時間がかかるために作業時間が短くて進まないといったことがあったが、これからの復旧工事は色々なところで時間がかかるので、自前で宿舎を整備された会社、あるいは共通で皆さんが用意されているところを活用して寝泊まりするといったことだと思うので、なんとかそれで進んでいくのではないかと考えている。地元の業者も人手不足なので、工事を出しても応札しないというのは出てきている。そのあたりをこれからどうしていくかということも工夫しながら進めていきたい。

参加者：

仮設住宅が空いたときに利用できないか。

市長：

様々な方に利用いただきたいが、全国からの中長期派遣の応援職員 100 名はトレーラーハウスなどで寝泊まりしていただいております、来年度以降も不足しないように応急仮設住宅の空いた部屋を活用できないかといったことが必要になってくる。介護系などもマンパワー不足であるが、新しく公募しても、実際に住まいがないことも大きな課題であるので、エッセンシャルワーカーの宿舎としても活用できないかということは考えている。工事業者となると状況は違うのかなと思うが、どういう方に仮設住宅を目的外使用として活用していただくか、先ほどご紹介した地域おこし協力隊の伊藤さんをはじめ、珠洲の支援に入ってもらえる方の住まいがないというのが一番のネックである。震災前に 5800 世帯あった住宅が公費解体で 2800 棟なくなり、約半分の住まいがなくなった。空き家だった家で半壊以上は、ほとんど公費解体となった。住まいがないというのがこれからの復旧・復興に向けても大きな課題である。そんな中、応急仮設住宅をいかに活用するかということは、随分前から国にも交渉し、県もやり取りしている。基本的に応急仮設住宅は、完成した時期がバラバラであるが、2 年経過したら目的外使用というハードルが低くなる。若干、家賃は発生するが、色々な形でうまく活用していきたい。

参加者：

更地が増えている中で、更地に外来種の黄色い花が咲いている状況である。対策をどのように考えているか。

市長：

更地が増え、雑草がどんどん伸びており景観にとっても良くない。対策については議会の一般質問でもよく出てくるが、草が生えないように防草シートを敷く方もおり、それに対し市で補助制度を設けてほしいといった要望もある。防草シートにしても何年も持つものではない。直射日光に当たるとパリパリになってきて、風で飛んでいくと今度は海洋マイクロプラスチック汚染に繋がりがねない。色についても黒、グレー、緑、青もあり、防草シートを補助金を設けて推奨するというのもどうかと思う。何か良い方法があるかは難しいが、市で検討しているのは、その区ごとに更地になったところは何件あるか。棟数ではなく、3 棟だとしてもそこが全部更地になったとすれば 1 件として数えて、区ごとの件数を出してもらい、年 2 回の草刈りを行うことで、区に対して補助金を出すという方法である。

年 2 回で 1 回あたり 1 件 2000 円というのは妥当なのかどうか。一つの区で 30 件更地ができたとするとな年に 2 回、1 回 6 万円、2 回で 12 万円になる。それで頑張って草刈りしていただけるか。樋爪区長会長や区長がどういう感触か話をさせていただき、来年度からこういった形で進めるか詰めていきたい。公費

解体した土蔵や納屋も含めて、今後、毎年補助金を出すことが財政的にもギリギリであり、難しいところである。更地が多くなったということは住む方が減ったということにもなるので、人手が足りないという話にもなる。また色々と皆様と相談しながら考えていきたい。

参加者：

新聞で見たが、富来町で1家庭2万円の補助金が出ているような話を聞いていないか。

市長：

おそらく役所ではなく地区でやっていると思われる。基本的にその土地の所有者の方がなんとかしなくてはならないというのが本来である。

参加者：

復興公営住宅について、用地の取得に関して目処が立っているということだろうか。実は私が相続した土地が少し掛かっているが、あまり進行しているように思えない部分がある。

市長：

皆さんに場所を示す時には、測量など調査して地権者の方にも同意をいただかないといけないところがある。取得してから違うところというわけにもいかない。皆さんに意向を確認するタイミングと、実際に用地を取得する段階に入るタイミングと、その辺が難しい。また意向調査の結果、そこに住みたいという方が10世帯なのか30世帯なのかで、買収する面積も違ってくるため、その調整が難しい状況である。

珠洲市：

用地の交渉が進んでいるところもあれば、測量だけが終わっている箇所もある。本格的な用地交渉はこれから年内に整備場所や戸数を示した後に、行っていきたいと考えている。

参加者：

夏の正院地区での説明会の議事録を読んだが、用地取得に関する質問に対し、担当者から市が交渉するとあった。また、単価については固定資産税の評価額を基本とするとある。自分の土地を調べてみるとびっくりするほど安い。これで本当に土地の取得が進むのだろうか懸念される。インターネットなどで見ると公共用地の取得に関しては、適正な値段で正常な取引をベースにということが書いてあるが、詳しいところがよく分からない。固定資産の評価ということになると、畑であることも含めて、本当に用地の取得が順調に進むのだろうかということを心配している。

珠洲市：

基本的にどのような価格で用地の交渉に入るかについては、議事録の通り評価額での取得を考えている。現在、用地交渉を行っているが、価格のトラブルなどはない。地区から提案いただいた用地は、地区の皆さんで概ね了解していると認識している。中には聞いてないという方も出るかもしれないし、測量の伺いを立てる際に反対した方もいた。復興公営住宅は安定的な住まいとして本当に急がなければならないし、用地に関しては丁寧に詰めていかなければならないと考えているので、協力していただきたい。

参加者：

復興公営住宅に入る人について、コミュニティを優先すると以前言われていたが、その通り優先していくのだろうか。他の地区から入りたい人が多くいるという中でも優先されるのだろうか。

泉谷市長：

できるだけコミュニティが維持できるように、直地区であれば3箇所あるいは4箇所、計画をしようということである。蛸島地区は蛸島地区で、正院地区は正院地区でという形で進めていく。とにかく早く効率よく整備をしようと思えば、珠洲のどこかにまとまった地面を確保し、その1箇所だけで希望する700世帯分を建て、エレベーターで10階建てにすることも考えられる。しかしそれではコミュニティの維持再生が難しくなると思うため、できるだけ市内に分散させる。全部で26箇所＋αで考えている。これがコミュニティをできるだけ配慮する考え方である。その中で、他の地区で、直地区もしくは飯田地区あるいは病院の近くに住みたいという方もいる。そんな時に地元の方を優先して、外からの方を後回しにするということにならないように、4回目の意向調査をできるだけ丁寧に進めている。現在、85.5%の回答をいただいているが、できるだけ100%まで近づけられるようにすることによって、希望する地区で復興公営住宅に入居できるよう整備していきたい。

参加者：

固定資産税について、家を建てるあるいは空き地のままにすると税金はどうなっていくのか。

泉谷市長：

地面の上に建物が立っていれば地面の固定資産税は1/6に軽減されている。公費解体によって更地になると感覚的には6倍になる。自力で再建したいと思っても、今ハウスメーカーも手一杯であり、着工までに期間を要したり、受付を止めてるところもあり、固定資産税をしばらく上げないで欲しいということを要望している。この前も国土交通大臣が来られた際に、継続して申し上げている。熊本地震から9年ほど経っているが、未だに措置期間を引っ張っていたと思う。本来であれば年明けから6倍になるが、措置期間を延長してほしいと要望している。

参加者：

復興計画と関連したことであるが、東日本大震災の被災地などの災害公営住宅の現状を聞くと、孤立したり、孤独死したり、集合住宅だとコミュニティが成り立ちにくい。庭の花に水やりをしたり、近くの畑に農作業をしに行ったり、珠洲は出歩く機会が多いと思うが、すれ違い時の挨拶や立ち話がコミュニティの本質なのではないか。今まで自分が住んでいたまちの住宅に入るということは大事だと思うが、その後のソフト面の工夫、例えば玄関前に花壇があってみんなで管理するとか、小さい畑や共同で管理するシェアファームを使い、交流や運動などの生活の質を高める工夫みたいなものも考えていかないといけないのではないかと考えている。限られた面積の中でどこまで工夫ができるかというのはあると思うが、それらを見据えて建築の設計を考えていただきたい。冷たい公営住宅ではなく、温かく交流できるようになれば、まち全体も温かい雰囲気になったり、ここで暮らせてよかったねという雰囲気になると思う。

市長：

できるだけコミュニティを維持する形で、公営住宅の整備を進めていきたいという思いである。見守りについて、珠洲ささえ愛センターの方で進めているが、復興公営住宅に入居されても、メンタルのリ



スクは続いていくと思う。長い目で取り組んでいかなければならない。東日本では、具合が悪くなっても隣の人が見つけてくれるから長屋タイプの方が安心して住んでいられるという声も多い。一概に戸建てが良く長屋タイプがダメではなく、集合住宅タイプにする時には福祉見守り的な機能をどこかに入れ込むなど、様々な工夫をしていきたい。

珠洲市：

現在、見守り相談支援事業で仮設住宅の集会所や公民館において健康相談やお茶会など色々なイベントを開いている。現在の課題としては男性の方が参加してくれない。見守り相談支援事業も仮設住宅がある間と国で決まっており、復興公営住宅ができた後、コミュニティの再建を一からやり直さなければならない。市長のほうから国の機関や県にも働きかけており、復興公営住宅には一室、皆さんとお話できるようなスペースも確保していただきたいと話しているので、また素敵な公営住宅になれば良いなと思っている。男性の方もイベントがあったら参加していただけるとありがたい。

市長：

応急仮設住宅でも男性の交流がうまくいかないことがある。

参加者：

高齢の方には「キョウイク」と「キョウヨウ」が必要という言葉聞いたことがある。普通の教育と教養ではなく「今日行くところ」と「今日やる用」があると、生き生きと暮らせるというふうにも聞いたりもする。場所を用意するだけではなく役割を与えるなどの工夫をするとうまくいくケースもあるので、アイデアを出し合って良いまちにしていけたら良いなと思う。

市長：

日曜日にラポルトすずで開催された「珠洲吹奏楽祭」も非常に良かった。珠洲市老人クラブ連合会の皆さんの大会が2年ぶりに開催され、映画をみんなで見ようといった企画があった。色んな機会を設け、「今日行くところ」を共に作っていききたいと思う。

番匠市議会議員

震災前から要望をしていた緑丘中学校の前の直角に曲がる道路であるが、朝になるとダンプやトラックが通って反対車線を埋めてしまい、交差点で渋滞するなど、なかなか対応してもらえない。また、岩坂町の道は、拡幅を進めていたが忘れずに続けてほしい。本江寺地内の道は昔から「神道（カミミチ）」と言われており、舗装の要望を上げたが、対応していただけておらず、工事を行うついでに舗装もしていただきたい。

市長：

岩坂町の道路についてはできるだけ線形をまっすぐにして広げて整備をしようとしていた矢先に地震が起きた。元々計画があったので進めていく。

珠洲市：

社会資本整備事業という補助事業で進めており、ご指摘通り進めている。用地を確保し、これから工事となる。災害復旧と合わせて狭隘（きょうあい）道路の拡幅などを進めていきたい。本江寺地内の道路は随時対応ということで簡易的な復旧対応をする。改めて現地を確認させていただく。緑丘中学校前

の交差点のところは災害復旧では難しいため、別の補助事業にて実施できるか検討したい。

参加者：

海岸護岸の復旧工事が終わり、半分浸水した砂浜の津波対応は素晴らしいと思っているが、畑をする人は極端に減り、ゼロに近い。雑草が増殖し、畑を作るのも大変困難な状態である。特に排水が非常に悪くなっており、配慮してほしい。

市長：

宝立正院海岸の護岸復旧整備は国土交通省の仕事であるが、実際に沈下や傾きにより排水が以前と比べると悪いところは結構ある。あるいは排水路そのものが被災して潰れてしまっていたり、土砂が入っているところもあるので、それぞれに迅速に対応できれば良いが、なかなか難しい。特にひどいところがあれば個別具体的に教えていただきたい。

珠洲市：

浜側の下水の幹線が埋設しているところについて、能登復興事務所の海岸護岸の説明会で同じような発言を聞いた覚えがあるが、畑の水が護岸によって海岸に抜けない。国の担当に確認する。

泉谷市長：

寒い中ありがとうございました。まずは住まい、復興公営住宅を早く決めて進めて欲しいということが一番大きいと思う。できるだけ年内には整備方針を固め、早く取り組み、早くご入居いただけるように進めていきたいと思う。インフラの復旧や具合の悪いところも言っていただったので、確認しながら対応できるところは早急に対応していきたい。直地区全体としてどうこれから復興、すなわち賑いを作っていくか。特に浜側はひどい状況であるので、景観も含めどう整えていくかということは重要だと思う。道路もしっかりと復旧していくが、これからもこういった機会も設けていきたいと思うし、地域の皆さんで議論いただき、継続して意見をどんどん出していただければと思うので、よろしくお願いします。皆さんと共に復旧・復興を成し遂げていくので、引き続きよろしくお願いします。

以上